



## 第23回「金融と経済を考える」高校生小論文コンクール

秀作

# 幸せのバトン

神奈川県・横須賀学院高等学校 2年 吉田 千夏

「生きたお金を使いなさい。」

この言葉は、私の母の口癖だ。正直、私にとってこの言葉は理解不能だった。学生である私は、自分でお金を稼いだこともないため自分には無関係だと思っていた。今回、この作文をきっかけに「経済を回す」とは何だろうと自分なりに考えてみた。たとえば友達と遊んだり、自分の好きな物を買ったり、相手へのプレゼントを買ったり、学校に行って授業を受けたりすることなどだ。お金の使い方は人によって様々だと思う。お金というものはその人自身が価値づけるものだからだ。たとえば、自分の好きな物を買うとしたら、私は好きなアーティストのアルバムを買うためにお金を使う。これが私にとって価値のある買い物だ。けれど、他の人にとってはそうでないかもしれない。また、私たちは日々当たり前前に学校へ行き、教育を受けることができている。勉強はもちろん、大切な友達と過ごす大切な時間は私にとってかけがえのない価値のあるものだ。しかし、この当たり前が当たり前ではない国がある。アジアの中で経済支援が必要とされる国の一つ、ネパールである。私の母は2021年からワールド・ビジョンという組織のチャイルド・スポンサーとなった。ワールド・ビジョンとは、キリスト教精神に基づいて開発援助・緊急人道支援・アドボカシー（市民社会や政府への働きかけ）を行う国際NGOである。現在、約100カ国で宗教、人種、民族、性別にかかわらず、すべての子どもたちが健やかに成長できる世界を目指して活動をしている<sup>1)</sup>。母は其中でネパールに住むある一人の男の子のチャイルド・スポンサーとして今日も教育支援をしている。チャイルド・スポンサーになると、毎月決められた金額を寄付する。それをワールド・ビジョンが支援している子どもたちの教育などに使用するというシステムだ。このチャイルド・スポンサーの支援プログラムはその地域の支援、目標が達成した際に終了する。また、支援していたチャイルド（子ども）の状況が変化し、支援が不要になった場合にも終了することがある。そして、スポンサーシップは止めたい時に

はいつでも止めることができる。当時、私は中学一年生。そのことをきいた時は、それがどんなものなのか深く知ろうとはしなかった。しかし、最近母が支援しているその男の子からのビデオレターが届いた。そのビデオレターは不定期に届くため、その動画を観た時はとてもうれしかった。私は兄弟がいないので弟の成長を見ているように感じた。そして何よりも国境を越えてその男の子と繋が<sup>つな</sup>がっていられることが不思議な感じにも思えた。

このことをきっかけとして、私はネパールの経済状況や教育状況について調べてみることにした。最貧国の一つとされているネパールでは、5歳から17歳の子どものうち110万人、つまり約6人に1人が学校に行くことができず、児童労働に従事している<sup>2)</sup>。なぜ学校に通うことができないのか。それは親から子、子から孫へという連鎖が続いてしまっているからだ。実際、ネパールの小学生の保護者のうち小学校を卒業していない割合は約57パーセントに上り、そのうち約86パーセントは字をよむことができていない。さらに最貧困層では約60パーセントの保護者が学校に通ったことすらない<sup>3)</sup>。一方日本は、義務教育というシステムがあることにより、等しく教育を受ける権利が一人一人に与えられている。それぞれの国にとっての「当たり前」が他の国ではそうではないということが改めて分かった。

このワールド・ビジョンのもう一つの大きな目的は「自立」である。人は人から支え続けられると初めの頃はとても心強く、有り難いものと思えるかもしれない。けれども、それがずっと続いて、助けられることが当たり前になってしまうと人はどんどん自立することから遠ざかり、弱くなってしまうのではないだろうか。

つい最近、ネットである記事を見つけた。幼少期に実際、ワールド・ビジョンの支援を受けていた男の子が高校卒業後にかつて自分と同じような困難な状況にある子どもたちを救うためにワールド・ビジョンでボランティアを始めたという内容だ<sup>4)</sup>。私はこの記事を見て、送る相手のことを想って使うお金には人を幸せにできる力がある、だからこそその男の子は、自分がしてきてもらったことを忘れることなく想いと行動でボランティア活動に取り組んだのだと私は思う。もちろん、初めはこちらからの一方的な経済的支援なのかもしれない。けれど、このように思いやりの輪がどんどん広がっていくことで一人でも多くの子どもたちが「笑顔」で暮らすことができる、そんな未来になってほしいと思う。

いつか私も大人になったら母のように1円でも多くの経済支援をしていきたい。  
明日を「笑顔」で生きる子どもたちのために。

(注)

- 1) 国際協力NGOワールド・ビジョン「ワールド・ビジョンとは」

URL <https://www.worldvision.jp/about/index.html>

閲覧日 2025年8月26日

- 2) シャプラニール＝市民による海外協力の会「ネパールの地方部における児童労働削減支援」

URL [https://www.shaplaneer.org/support/nepal\\_cl/](https://www.shaplaneer.org/support/nepal_cl/)

閲覧日 2025年8月26日

- 3) 特定非営利活動法人サルタック「ネパールには学びを継続できない子どもたちがたくさんいます」

URL [https://www.sarthakshiksha.org/ja/lp\\_0104\\_2021/](https://www.sarthakshiksha.org/ja/lp_0104_2021/)

閲覧日 2025年8月26日

国際協力NGOワールド・ビジョン「支援を受けた、あの子は今？」

URL <https://www.worldvision.jp/lp/childsponsorship/fy25/004/index.html>

閲覧日 2025年8月26日